

問 以下の文章は、「近年問題になっている長時間労働をはじめとする日本の労働環境」に関する記事です。記事の内容をまとめた上で、「これからの日本の雇用のあり方」について、あなた自身の考えを700～800字で述べなさい。

過労死や過労自殺が後を絶たない。日本社会にはびこる長時間労働の慣行や残業の常態化、サービス残業が背景にあるのは間違いない。過労死の労災認定の目安は月80時間で、それを超えて残業する正社員がいる企業は2割を上回る。有給休暇の取得率が5割を下回っているのも問題だ。

こうした過重労働の一因に、日本の労働市場の流動性の低さがある。過重労働を強いられても、より良い労働条件を求めて転職する選択肢になかなかたどり着けない。

最近の過労自殺のニュースをきっかけに、日本の働き方の異常さを指摘する海外メディアが増えてきた。英エコノミスト誌は「仕事の成果より会社で過ごす時間や仕事への献身度をはるかに評価する日本の企業風土の中では、労働慣行を徹底的に改革するのはいつまでたっても難しいだろう」と指摘した。

さらに辛辣に皮肉る。「過重労働は日本経済にあまり恩恵をもたらしていない。米国は1時間当たり62ドルの国内総生産を生み出すのに対し、日本はたった39ドルだ。つまり労働者が燃え尽き、ときに過労死するのは、悲劇であると同時に無意味だ」と。

フランスの調査会社によれば、日本人は仕事に対する意欲が他国に比べて異様に低い。「朝、出社するのが苦痛」「職場環境が刺激的でない」と考える人が多く、「日本人は会社から仕事を押し付けられて、いやいや働いている人が多いという印象だ」と分析した。

多くの日本人が、仕事で強いストレスを感じ、働く喜びを見いだせないのは深刻な事態である。このままでは日本経済の活性化に不可欠な生産性の向上どころか、産業競争力を維持するために必要な高い付加価値を生み出せない。

あらゆるモノがネットにつながる「IoT」、人工知能(AI)の時代になると、産業構造は大きく変わる。変化についていけない企業は消滅し、働く人が持つスキルは陳腐化してしまう。

企業は、今まで以上に人材のスキルアップを図り、場所と時間を問わない働き方を取り入れていく必要がある。硬直的な労働市場のままでは新しい時代に対応できず、目の前にあるチャンスをつかめない。働き方改革は待ったなしである。

【出所】「働き方改革待ったなし(大機小機)」『日本経済新聞』2016年11月8日付朝刊、3頁。